

習熟度別少人数指導について（案）

要約

- ・ 習熟度別少人数指導を行っている学校は、国語では 20%に満たない。算数・数学では小学校で 70%弱、中学校で半数ほどの学校が行っている。→算数・数学のみ分析
- ・ 習熟度別少人数指導を多くの時間で行っている学校の方が学力上位層が多く、学力下位層が少ない関係が見られた。習熟度別少人数指導を短期間だけ行った学校よりも、年間を通して行った学校の方が、低学力層を減らし、高学力層を増やしていた。
- ・ 習熟度別少人数指導を多くの時間で行った学校の児童生徒の方が、算数・数学に対して、好き・大切・よく分かると肯定的な回答をしている。
- ・ 習熟度別少人数指導の実施状況と、児童生徒の自尊感情には関連が見られなかった。

I. 分析内容

平成 19 年度追加分析においては、「習熟の遅いグループに対する少人数指導を多くの時間で行った学校ほど学力層 D（低学力層）の児童生徒の割合の少ない学校が多い傾向が見られ、習熟の遅いグループに対する少人数指導が児童生徒の学力の底上げと関連があると考えられる。また、習熟の早いグループに対する発展的指導を多くの時間で行った学校ほど、発展的指導を行っていない学校よりも学力層 A（高学力層）の児童生徒の割合の多い学校が多い傾向が見られ、習熟の早いグループに対する発展的指導が児童生徒の学力を伸ばすことと関連があると考えられる。」との分析結果が得られた。さらに、習熟度別少人数指導を行った学校では、習熟度別少人数指導を行っていない学校よりも、国語、算数・数学への消極的態度を示す児童生徒の割合が少ない学校が多い傾向が見られた。

平成 20 年度においても、19 年度と同様の分析を行い、19 年度の分析結果を確認する。また、新たな観点として、習熟度別少人数指導が児童生徒の自尊感情に関係しているかを検討する。

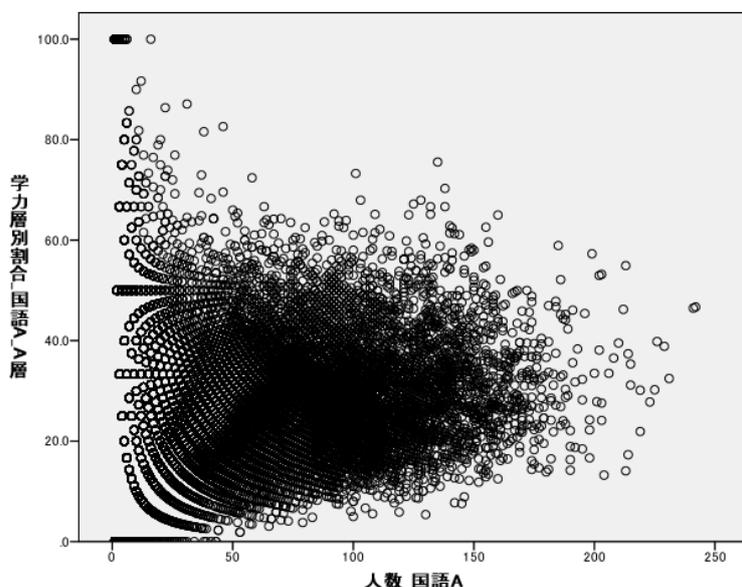
II. 分析対象校の設定

習熟度別少人数指導の目的は、学習集団を少人数のグループに再編制し、個に応じたきめの細かい指導を行うことである。そのため、習熟度別少人数指導は、もともとある程度の規模をもつ学校において実施することが有効であると考えられる。

また、学校の平均正答数や高/低学力層の割合は、学校内の児童生徒数の影響を受ける。図 1 は、公立小学校における国語 A の解答児童数と、各学校における学力層 A の児童の割合を散布図に示したものである。図に見られるように、解答児童数が少ない学校では、一人一人の児童の学力層により学校内の学力層の割合が大きく影響され、ばらつきが大きくなる。

そこで本分析では、4 月 22 日に調査を実施し、それぞれの教科の解答者数が 21 人以上の公立学校に限定する。

図1 解答児童数と国語Aの学力層Aの割合



Ⅲ. 習熟度別少人数指導の実施状況

20年度調査では、質問紙の文章を、「多くの時間で行った」というあいまいな問い方ではなく、「ここでいう『少人数による指導』とは、1つの学級を2つ以上の学習集団に分けたり、複数の学級から学級とは別の2つ以上の学習集団に分けた上で、それぞれの学習集団を別の教員が指導するケースが該当します。学級を班に分けて同じ内容の指導を一人の教員が行うケースは含みません。」と少人数指導の定義を示した上で、「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」と質問紙の問い方を変えた。そのため、もともと少人数の学校や、班学習を行っている学校と区別され、より正確に習熟度別少人数指導の実施状況が把握できた。

分析対象校における習熟度別少人数指導の実施状況は表1の通りである。習熟度別少人数指導を行っている学校は、国語では20%に満たない。算数・数学では小学校で70%弱、中学校で半数ほどの学校が習熟度別少人数指導を行っている。この実施状況を考慮し、以降の分析では、算数・数学のみについて分析を行うこととする。

表1 分析対象校における習熟度別少人数指導の実施状況

①国語における習熟度別少人数指導の実施状況

国語の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

		年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った	年間の授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った	年間の授業のうち、おおよそ1/4以上、1/2未満で行った	年間の授業のうち、おおよそ1/4未満で行った	習熟度別の少人数指導を行っていない	合計	n
小学校	国語A	1.6%	2.1%	4.3%	9.3%	82.7%	100.0%	15469
	国語B	1.6%	2.1%	4.3%	9.3%	82.7%	100.0%	15468
中学校	国語A	1.8%	1.4%	2.5%	6.0%	88.3%	100.0%	8707
	国語B	1.8%	1.4%	2.5%	6.0%	88.4%	100.0%	8706

国語の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

		3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない	合計	n
小学校	国語 A	1.0%	1.5%	3.9%	9.1%	84.5%	100.0%	15454
	国語 B	1.0%	1.5%	3.9%	9.1%	84.5%	100.0%	15453
中学校	国語 A	1.4%	1.1%	2.3%	5.6%	89.6%	100.0%	8707
	国語 B	1.4%	1.1%	2.3%	5.6%	89.6%	100.0%	8706

②算数・数学における習熟度別少人数指導の実施状況

算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

		3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない	合計	n
小学校	算数 A	22.5%	11.6%	15.1%	18.4%	32.5%	100.0%	15467
	算数 B	22.5%	11.6%	15.1%	18.4%	32.5%	100.0%	15467
中学校	数学 A	22.9%	6.8%	8.8%	12.3%	49.2%	100.0%	8703
	数学 B	22.9%	6.8%	8.8%	12.3%	49.2%	100.0%	8703

算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

		3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない	合計	n
小学校	算数 A	16.7%	9.8%	14.6%	22.2%	36.7%	100.0%	15467
	算数 B	16.7%	9.8%	14.6%	22.2%	36.7%	100.0%	15467
中学校	数学 A	19.4%	6.2%	8.8%	13.8%	51.9%	100.0%	8705
	数学 B	19.4%	6.2%	8.8%	13.8%	51.9%	100.0%	8705

IV. 習熟度別少人数指導と平均正答数

習熟度別少人数指導の効果を分析するため、学校の平均正答数を習熟度別少人数指導の実施状況別に算出した。その結果が表2である。

習熟の遅いグループに対する少人数指導では、小学校では多くの時間で行っているほど、平均正答数がやや高い傾向が見られた。中学校では、3/4以上の時間で行っている学校の平均正答数が高くなっているが、3/4未満の時間では明確な傾向が見られなかった。

表2 習熟度別少人数指導と平均正答数

習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

		3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	13.78	13.74	13.67	13.61	13.61
	算数 B	6.73	6.68	6.61	6.60	6.63
中学校	数学 A	22.83	22.47	22.54	22.55	22.61
	数学 B	7.44	7.28	7.32	7.30	7.34

習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

		3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	13.83	13.77	13.72	13.61	13.59
	算数 B	6.78	6.70	6.65	6.59	6.62
中学校	数学 A	22.89	22.60	22.57	22.61	22.57
	数学 B	7.46	7.33	7.33	7.32	7.32

V. 習熟度別少人数指導と学力層

習熟度別少人数指導のねらいには、習熟の遅いグループの底上げと、習熟の早いグループの伸長が考えられる。このねらいを踏まえて習熟度別少人数指導の効果を分析するため、児童生徒を4つの学力層に分けて、習熟度別少人数指導の実施状況別に学力層別の児童生徒の割合の状況を分析する。学力層は、正答数を四分位により分類したときに、多い順から学力層A・B・C・Dとしている。

表3の数値は、分析対象校における学力層AおよびDの児童生徒の割合の平均である。それぞれの学校における学力層Aの割合がこの値を上回っていれば、その学校は学力上位層をより伸ばしており、学力層Dの割合がこの値を下回っていれば、その学校は学力下位層の底上げをしていると考えることができる。

表3 分析対象校における学力層A・Dの児童生徒の割合の平均

		算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	学力層 A	26.0%	29.1%
	学力層 D	25.3%	25.2%
中学校	学力層 A	24.3%	23.7%
	学力層 D	23.8%	18.1%

1. クロス集計

学力層Aの割合が平均を上回っているか、あるいは、学力層Dの割合が平均を下回っているかを習熟度別少人数指導の実施状況別に見たのが、表4である。19年度追加分析結果と同様、習熟度別少人数指導を多くの時間で行っている学校の方が学力上位層が多く、学力下位層が少ない関係が見られた。

小学校と中学校を比べると、小学校の方がはっきりとした傾向が見られる。習熟の遅いグループに対する指導とD層の割合の関係、習熟の早いグループに対するA層の割合の関係を比べると、19年度では早いグループに対する指導の方が明確な関係が見られたが、20年度ではあまり差がないか、遅いグループに対する指導の方が若干明確な関係が見られた。

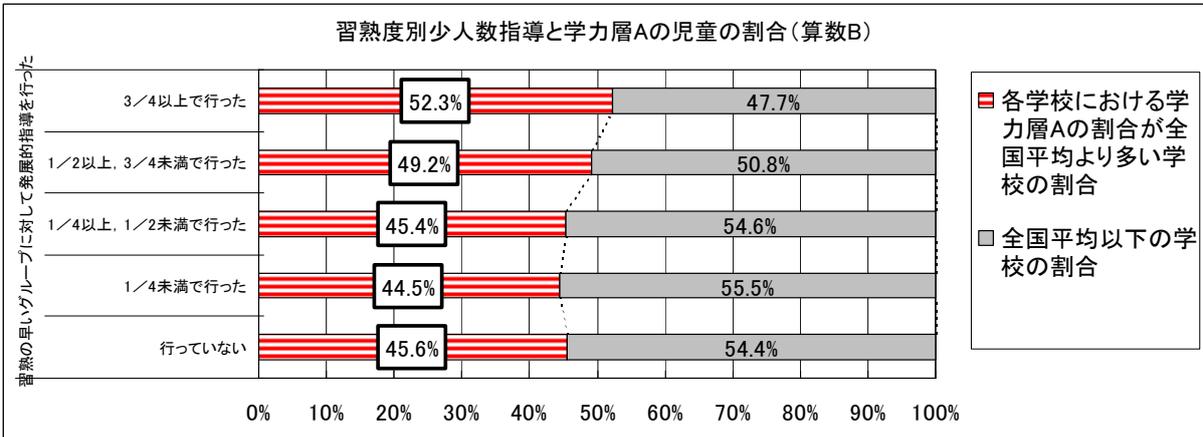
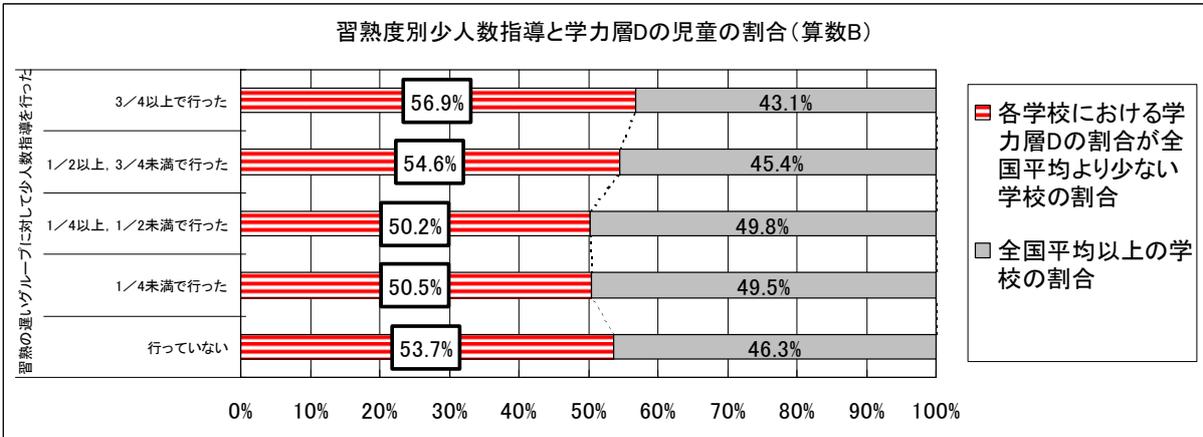
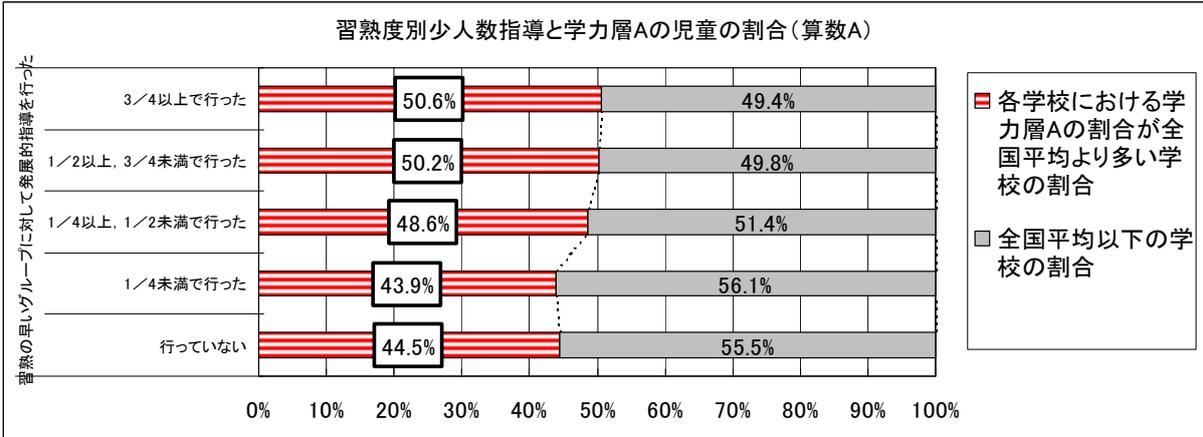
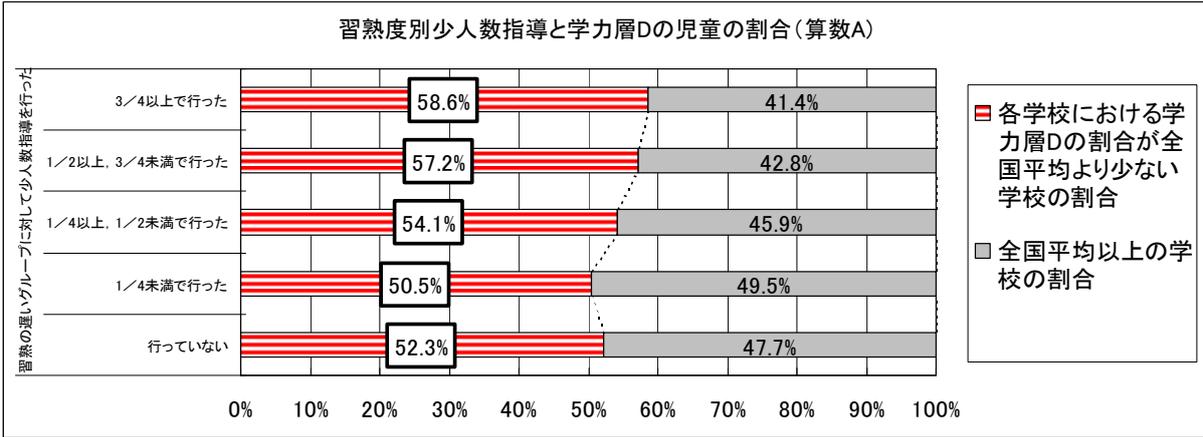
表4 習熟度別少人数指導と学力層の割合

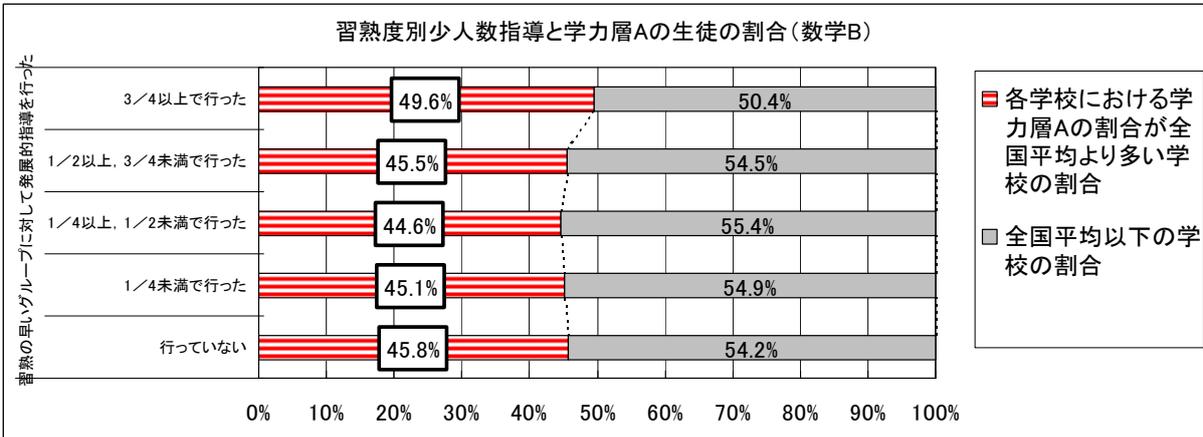
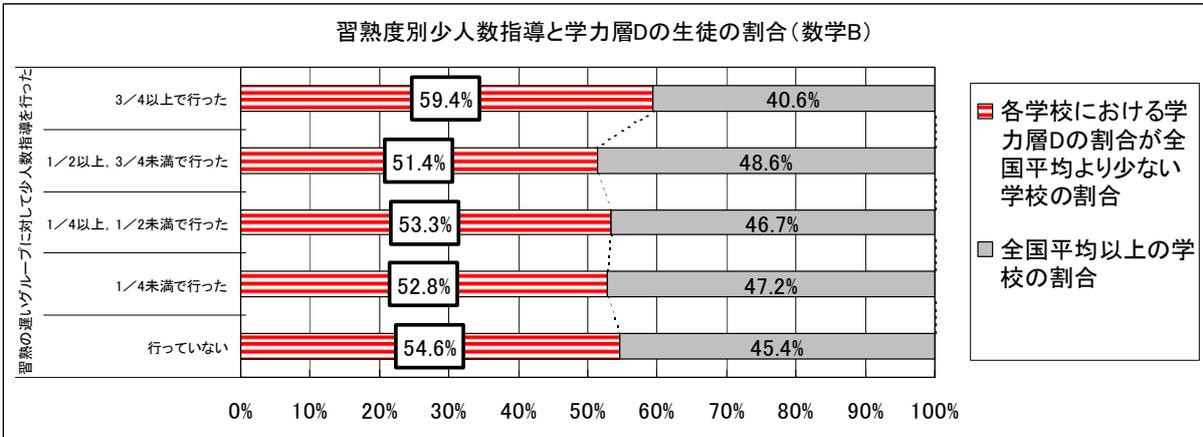
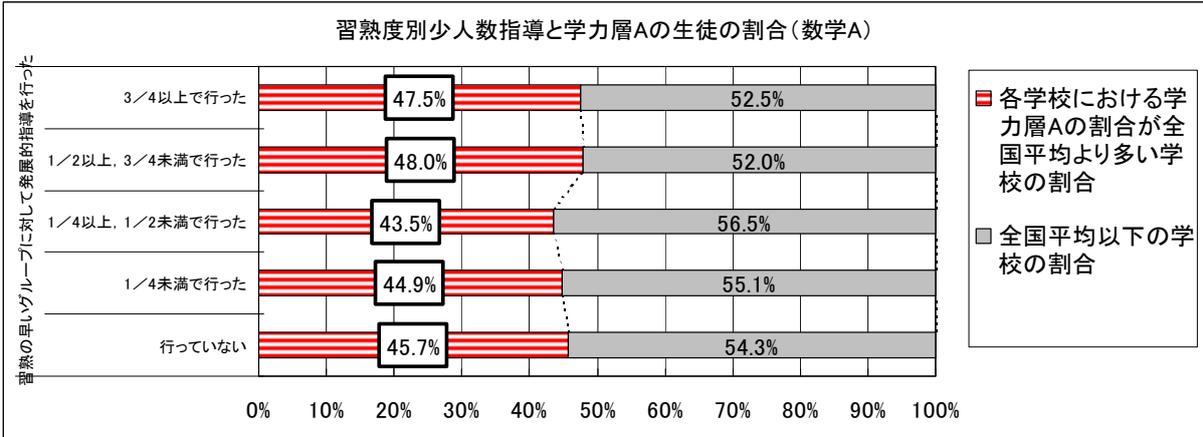
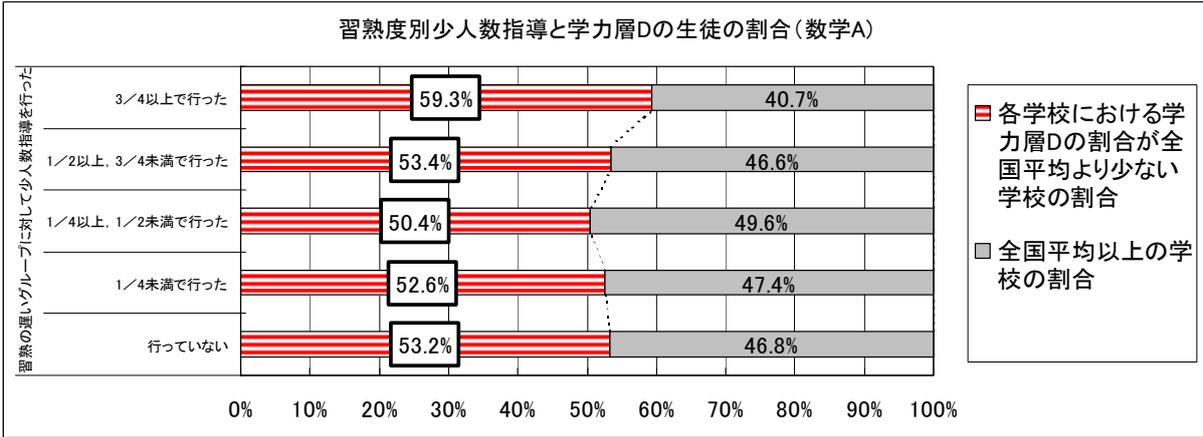
算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

			3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	D層の割合が少ない	58.6%	57.2%	54.1%	50.5%	52.3%
	算数 B	D層の割合が少ない	56.9%	54.6%	50.2%	50.5%	53.7%
中学校	数学 A	D層の割合が少ない	59.3%	53.4%	50.4%	52.6%	53.2%
	数学 B	D層の割合が少ない	59.4%	51.4%	53.3%	52.8%	54.6%

算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

			3/4以上で行った	1/2以上, 3/4未満で行った	1/4以上, 1/2未満で行った	1/4未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	A層の割合が多い	50.6%	50.2%	48.6%	43.9%	44.5%
	算数 B	A層の割合が多い	52.3%	49.2%	45.4%	44.5%	45.6%
中学校	数学 A	A層の割合が多い	47.5%	48.0%	43.5%	44.9%	45.7%
	数学 B	A層の割合が多い	49.6%	45.5%	44.6%	45.1%	45.8%





2. 地域等の要因を考慮した結果

低学力層の底上げ、高学力層の伸長には、習熟度別少人数指導以外にも地域等の要因も関係していることが考えられる。クロス集計で見られた傾向が、地域等の要因を考慮した場合でも見られるかどうかを確かめるため、ロジスティック回帰分析¹を行った。

表5は、各学校における学力層Aの割合が分析対象校全体における割合の平均を上回るか否か、あるいは学力層Dの割合が平均を下回るか否かを基準変数にした、二項ロジスティック回帰分析の結果である。独立変数には、学力層Dを基準変数とした場合には習熟の遅いグループに対する少人数指導の頻度、A層を基準変数とした場合には、習熟の早いグループに対する少人数指導の頻度を用い、加えて、6年生/3年生の学級数、地域規模（大都市・中核市・その他の市・町村）、就学援助率を用いた。

この結果、特に4分の3以上の時間で行っている場合の係数が大きい場合が多く見られた。学級数、地域規模、就学援助率を統制しても、習熟度別少人数指導を年間を通じて行うことが、低学力層の底上げと高学力層の伸長に関係していることが確認できる。

¹ ロジスティック回帰分析とは、生存/死亡、疾病の有無など、あり/なしの二値で表される現象を解析する方法である。本分析では、「学力層A(D)の割合が全国の割合を上回って(下回って)いる/いない」を明らかにしようとしている。表5は、習熟度別・少人数指導、学級数、地域規模、就学援助が、「学力層A(D)の割合が全国の割合を上回る(下回る)かどうか」に関係しているかどうかを分析した結果である。係数を見ると、習熟度別少人数指導を多くの時間で行っているほど係数が大きくなっている。すなわち、習熟度別少人数項目を多くの時間で行うほど、「学力層A(D)の割合が全国の割合を上回る(下回る)」確率が高くなることを示している。

表5 ロジスティック回帰分析の結果

①小学校

算数A

基準変数: 学力層Aの割合が全国の割合を上回っている

	Wald	カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導	41.505		4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った				0.227
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った				0.237
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った				0.167
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った				-0.018
習熟度別の少人数指導を行っていない				0.000
第6学年の学級数(特別支援学級除く)	5.942		12	
地域規模	366.918		3	
第6学年の就学援助率	456.920		6	

基準変数: 学力層Dの割合が全国の割合を下回っている

	Wald	カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の遅いグループに対して少人数による指導	63.829		4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った				0.304
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った				0.256
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った				0.133
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った				-0.019
習熟度別の少人数指導を行っていない				0.000
第6学年の学級数(特別支援学級除く)	11.201		12	
地域規模	97.711		3	
第6学年の就学援助率	580.263		6	

算数B

基準変数: 学力層Aの割合が全国の割合を上回っている

	Wald	カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導	34.092		4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った				0.223
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った				0.133
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った				-0.035
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った				-0.052
習熟度別の少人数指導を行っていない				0.000
第6学年の学級数(特別支援学級除く)	46.603		12	
地域規模	578.049		3	
第6学年の就学援助率	536.334		6	

基準変数: 学力層Dの割合が全国の割合を下回っている

	Wald	カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の遅いグループに対して少人数による指導	35.203		4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った				0.155
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った				0.073
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った				-0.117
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った				-0.101
習熟度別の少人数指導を行っていない				0.000
第6学年の学級数(特別支援学級除く)	17.399		12	
地域規模	305.780		3	
第6学年の就学援助率	677.395		6	

②中学校

数学 A

基準変数: 学力層 A の割合が全国の割合を上回っている

	Wald カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導	3.677	4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った			0.083
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った			0.105
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った			-0.050
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った			0.039
習熟度別の少人数指導を行っていない			0.000
第 3 学年の学級数(特別支援学級除く)	31.816	12	
地域規模	222.023	3	
第 3 学年の就学援助率	422.159	6	

基準変数: 学力層 D の割合が全国の割合を下回っている

	Wald カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の遅いグループに対して少人数による指導	29.664	4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った			0.289
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った			0.042
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った			-0.091
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った			0.048
習熟度別の少人数指導を行っていない			0.000
第 3 学年の学級数(特別支援学級除く)	15.395	13	
地域規模	158.538	3	
第 3 学年の就学援助率	554.3313689	6	

数学 B

基準変数: 学力層 A の割合が全国の割合を上回っている

	Wald カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導	9.455	4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った			0.181
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った			-0.001
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った			0.005
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った			0.033
習熟度別の少人数指導を行っていない			0.000
第 3 学年の学級数(特別支援学級除く)	24.424	14	
地域規模	191.224	3	
第 3 学年の就学援助率	478.595	6	

基準変数: 学力層 D の割合が全国の割合を下回っている

	Wald カイ 2 乗	自由度	係数
習熟の遅いグループに対して少人数による指導	18.567	4	
年間の授業のうち、おおよそ 3/4 以上で行った			0.199
年間の授業のうち、おおよそ 1/2 以上、3/4 未満で行った			-0.139
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上、1/2 未満で行った			-0.045
年間の授業のうち、おおよそ 1/4 未満で行った			-0.036
習熟度別の少人数指導を行っていない			0.000
第 3 学年の学級数(特別支援学級除く)	24.703	12	
地域規模	109.823	3	
第 3 学年の就学援助率	642.875	6	

VI. 習熟度別少人数指導と学習に対する関心・意欲・態度

平成 19 年度追加分析と同様に、習熟度別少人数指導と児童生徒の学習に対する関心・意欲・態度に関する児童生徒質問紙項目との関係について分析する。分析対象校は、調査対象学年の児童生徒数が 21 人以上と回答した学校とした。

1. 学習に対する関心・意欲・態度に関する項目と分析方法

学習に対する関心・意欲・態度に関する質問紙項目として、「算数・数学の勉強は好きだ」、「算数・数学の勉強は大切だ」、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」という 3 項目を取り上げる。これらの質問紙項目について、「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答をした児童生徒の割合を各学校別に算出した。分析対象校における関心・意欲・態度に関する項目に対する肯定的回答率の平均を表 6 に示す。この割合を上回っている学校の比率を習熟度別少人数指導の実施状況別に求めた。

表 6 分析対象校における関心・意欲・態度に関する項目に対する肯定的回答率の平均

	算数・数学の勉強は好き	算数・数学の勉強は大切	算数・数学の授業の内容はよく分かる
小学校	65.6%	91.8%	78.5%
中学校	52.8%	78.7%	65.9%

2. 分析結果

分析結果は表 7 の通りである。習熟度別少人数指導を多くの時間で行った学校ほど、学習に対する関心・意欲・態度に関する項目に肯定的回答をした児童生徒の多い学校が多い傾向が、特に、「国語の授業の内容はよく分かる」、「算数・数学の勉強は好き」、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」といった項目で見られた。

表 7 習熟度別少人数指導と肯定的回答をした児童生徒が多い学校の割合

算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

		3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	算数の勉強は好き	62.4%	55.1%	50.0%	46.6%	44.8%
	算数の勉強は大切	60.4%	58.4%	53.0%	54.3%	53.7%
	算数の授業の内容はよく分かる	62.6%	56.4%	48.7%	48.6%	47.0%
中学校	数学の勉強は好き	55.7%	49.5%	48.1%	48.5%	48.5%
	数学の勉強は大切	56.6%	52.7%	51.8%	50.0%	50.5%
	数学の授業の内容はよく分かる	57.8%	51.5%	49.7%	52.3%	49.9%

算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

		3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	算数の勉強は好き	64.8%	57.1%	50.6%	48.2%	45.2%
	算数の勉強は大切	61.1%	59.0%	54.7%	53.7%	54.1%
	算数の授業の内容はよく分かる	64.2%	57.8%	52.2%	48.7%	47.1%
中学校	数学の勉強は好き	56.5%	50.0%	49.5%	48.3%	48.5%
	数学の勉強は大切	57.3%	52.2%	52.7%	50.8%	50.4%
	数学の授業の内容はよく分かる	58.0%	53.7%	51.3%	52.4%	49.7%

VII. 習熟度別少人数指導と自尊感情

新たな分析として、習熟度別少人数指導と自尊感情の関係を分析する。習熟度別指導に対する懸念として、児童生徒の間に優越感や劣等感が生じ、人間関係が悪くなるという意見もある。例えば、平成 15 年の文部科学省による『学校教育に関する意識調査』では、授業の理解度によるグループ分けについて、「こどもの間に優越感や劣等感などが生まれる」に小中学校教員の 46.8%、小中学校保護者の 44.9%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。これを検証するため、まず自尊感情に関する 4 つの質問紙項目を用いた主成分分析を行い、自尊感情の主成分を抽出した。その主成分得点を用いて、習熟度別少人数指導による自尊感情の差異が見られるかを検討した。

1. 自尊感情に関する項目の主成分分析

自尊感情に関する質問紙項目として、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」という 4 項目を取り上げ、主成分分析を行ってこれらの変数を要約した。分析は、国公立私立学校の後日実施も含む全ての調査対象者について行った。分析の結果は表 8 に示している。小学校、中学校ともに第一主成分のみ抽出された。この分析で得られた主成分得点を用いて、習熟度別少人数指導と自尊感情の関係を分析した。

表 8 主成分分析の結果

	小学校	中学校
難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	0.701	0.725
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	0.689	0.693
自分には、よいところがあると思いますか	0.686	0.686
将来の夢や目標を持っていますか	0.576	0.600

2. 習熟度別少人数指導と自尊感情の主成分得点

調査対象学年の児童生徒数が 21 人以上と回答した公立学校に在籍する児童生徒を対象とし、習熟度別少人数指導の実施状況と主成分得点の関係を分析した結果が、表 9 および図 2 である。表 9 は、自尊感情の主成分得点の平均値を示しており、図 2 は自尊感情の主成分得点を箱ひげ図で示している。これらの結果に見られるように、習熟度別少人数指導の実施状況と自尊感情には明確な関係が見られなかった。

また、高学力層と低学力層の児童生徒において自尊感情に差が見られるかを検討した結果が表 10 である。学力層 A および D の児童生徒に限定した場合でも、明確な差は見られなかった。

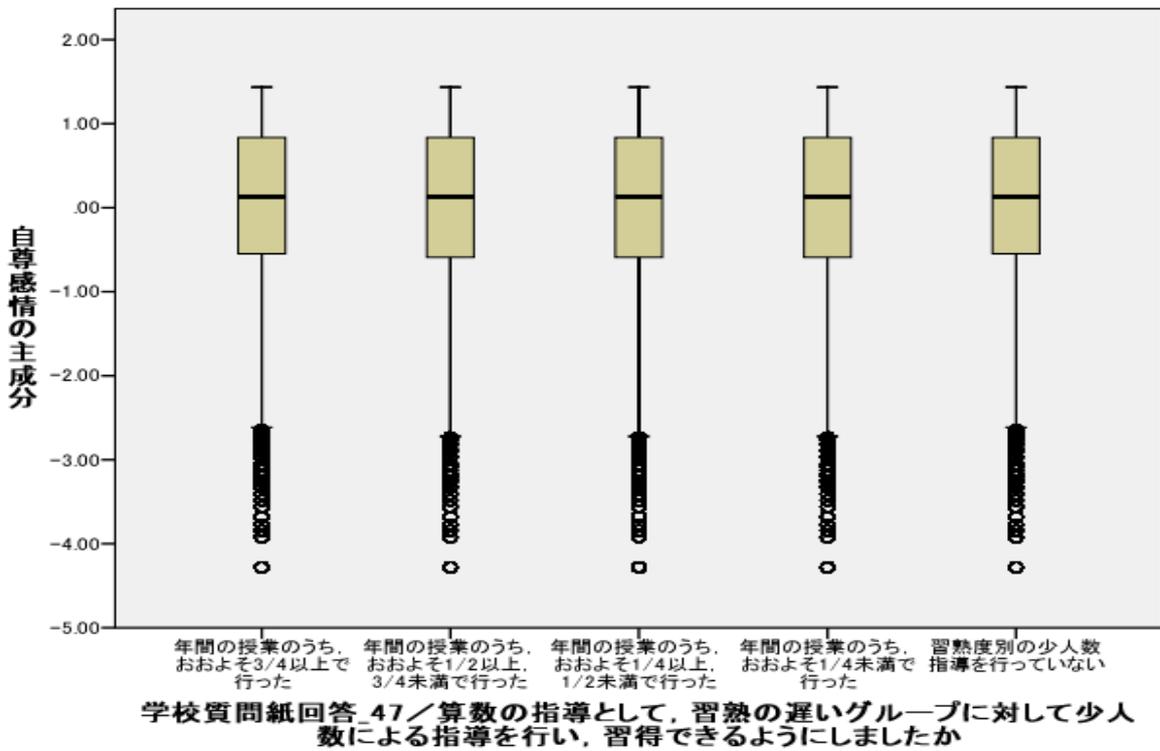
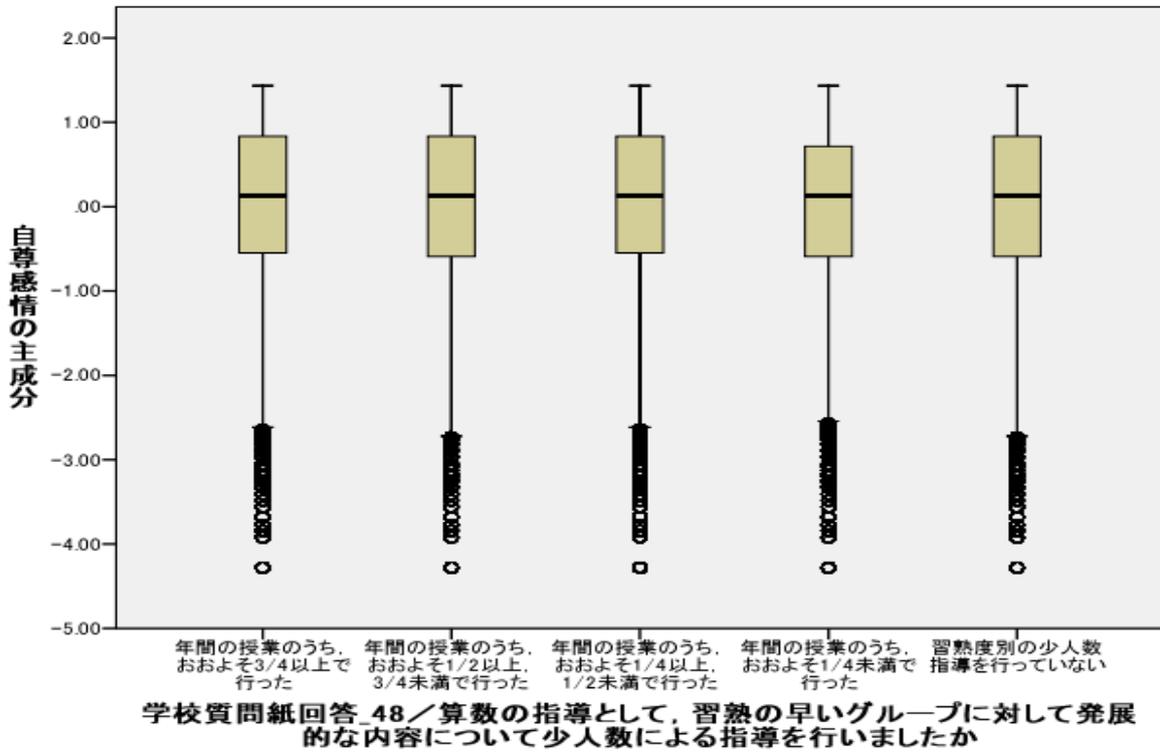
さらに、学力層別の分析と同様に、分析対象校における児童生徒の自尊感情主成分得点の平均を上回る児童生徒の割合が分析対象校全体の割合を上回っている学校の比率を、習熟度別少人数指導の実施状況別に求めた。このように集計をした場合でも、習熟度別少人数指導の実施状況と自尊感情の間に明確な関係は見られなかった。

表 9 自尊感情の主成分得点の平均値

		3/4 以上 で行った	1/2 以上, 3/4 未満で 行った	1/4 以上, 1/2 未満で 行った	1/4 未満 で行った	行って いない	
小学校	算数	習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	0.000	-0.008	-0.009	-0.008	0.002
		習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか	0.004	-0.004	-0.002	-0.012	-0.001
中学校	数学	習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	0.001	-0.004	-0.009	-0.007	-0.005
		習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか	0.004	-0.001	-0.002	-0.010	-0.006

図2 習熟度別少人数指導と自尊感情の主成分得点の箱ひげ図

小学校



中学校

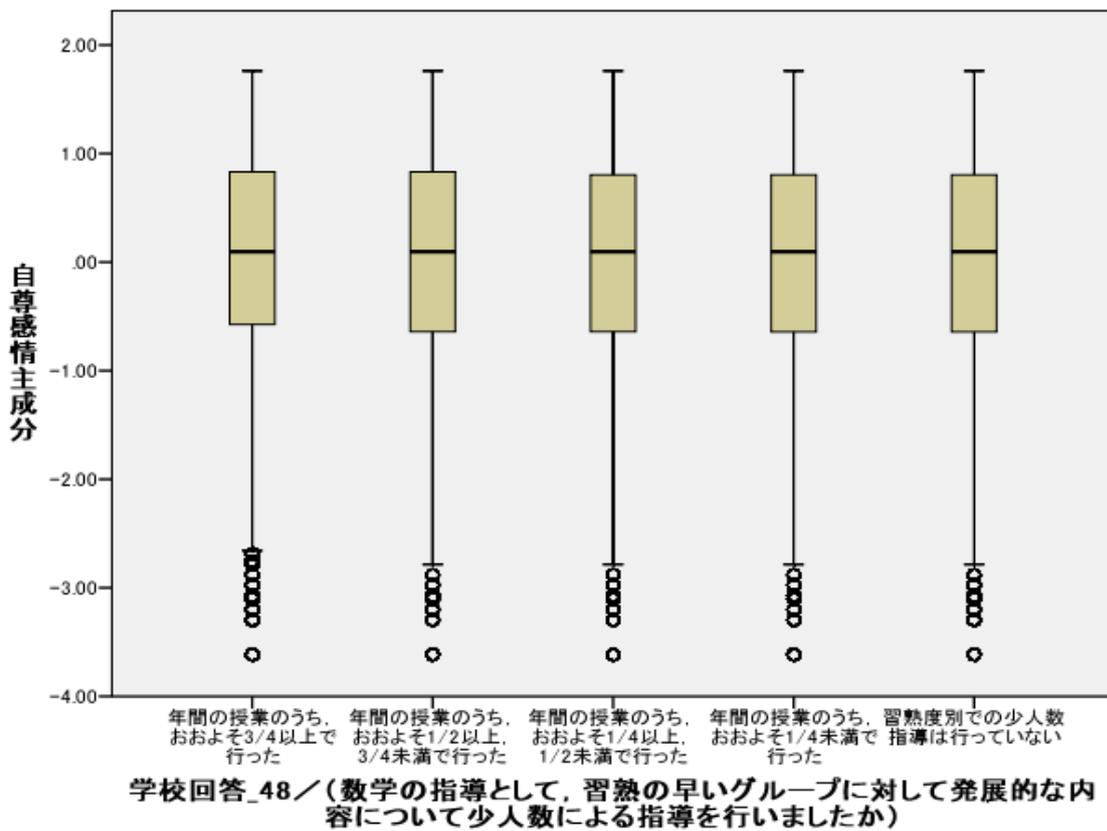
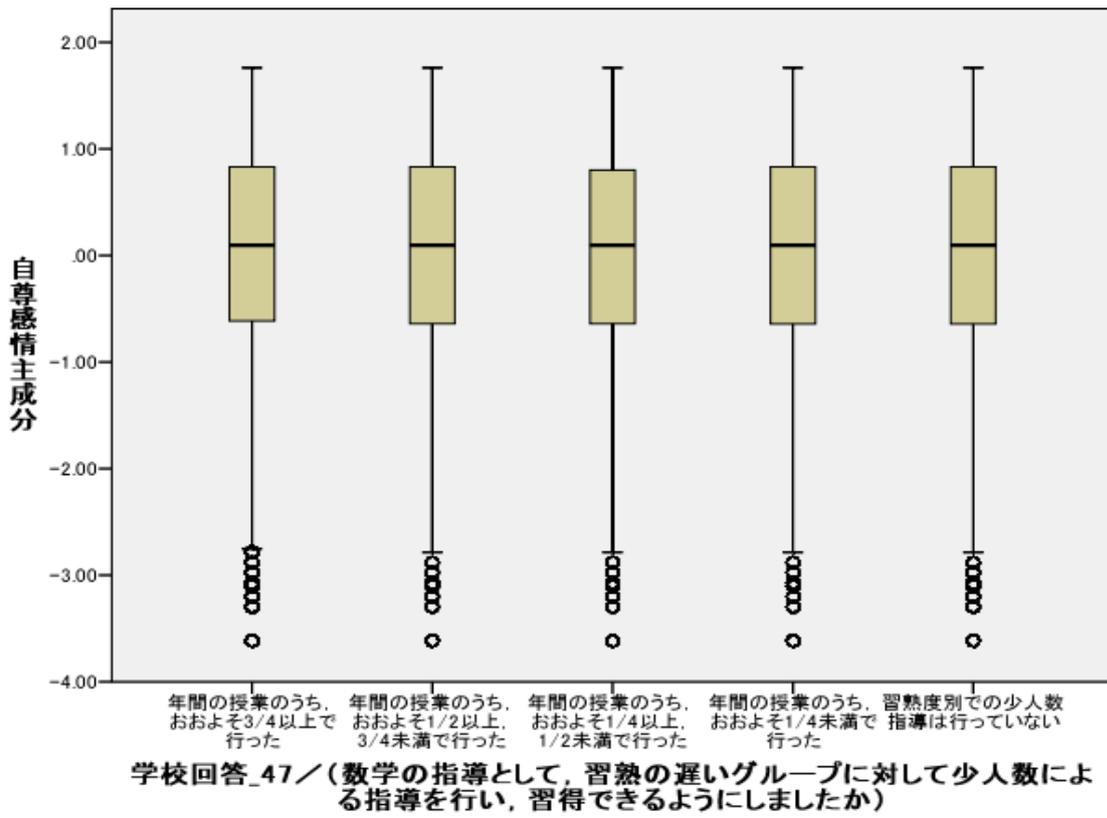


表 10 学力層 A および D の児童生徒の自尊感情主成分得点

習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

			3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	学力層 A	0.184	0.176	0.179	0.174	0.179
		学力層 D	-0.260	-0.270	-0.258	-0.255	-0.242
	算数 B	学力層 A	0.155	0.152	0.154	0.148	0.157
		学力層 D	-0.245	-0.258	-0.249	-0.246	-0.239
中学校	数学 A	学力層 A	0.145	0.136	0.136	0.141	0.136
		学力層 D	-0.200	-0.199	-0.203	-0.217	-0.204
	数学 B	学力層 A	0.138	0.132	0.138	0.141	0.135
		学力層 D	-0.222	-0.226	-0.236	-0.235	-0.224

習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

			3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	算数 A	学力層 A	0.185	0.176	0.181	0.176	0.178
		学力層 D	-0.260	-0.262	-0.248	-0.262	-0.247
	算数 B	学力層 A	0.155	0.152	0.155	0.150	0.156
		学力層 D	-0.242	-0.251	-0.239	-0.254	-0.243
中学校	数学 A	学力層 A	0.145	0.142	0.147	0.139	0.135
		学力層 D	-0.194	-0.203	-0.199	-0.222	-0.205
	数学 B	学力層 A	0.138	0.138	0.147	0.136	0.133
		学力層 D	-0.216	-0.226	-0.233	-0.240	-0.225

・自尊感情の主成分得点が分析対象校の平均を上回る児童生徒が多い学校の割合

まず、それぞれの児童生徒の主成分得点がこの平均値を超えているか否かという二値変数を作成した。その上で、各学校において、主成分得点が平均値を超えている児童生徒の割合を算出した。その結果が表 11 である。

表 11 分析対象校に在籍する児童生徒の自尊感情主成分得点の平均

小学校	中学校
-0.003	-0.004

分析対象校における、主成分得点が平均を上回る児童生徒の割合の平均は表 12 の通りである。自尊感情の主成分得点が平均より高い児童生徒がこの割合を上回るか否かを、算数・数学における習熟度別少人数指導の実施状況別に集計した。その結果が表 13 である。

表 12 分析対象校における、主成分得点が平均を上回る児童生徒の割合の平均

小学校	中学校
54.8%	54.7%

表 13 自尊感情が高い児童生徒が多い学校の割合

習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか

	3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	51.9%	49.9%	50.2%	51.8%	51.2%
中学校	51.3%	44.4%	48.8%	50.0%	50.2%

習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか

	3/4 以上で行った	1/2 以上, 3/4 未満で行った	1/4 以上, 1/2 未満で行った	1/4 未満で行った	行っていない
小学校	53.1%	50.0%	51.4%	50.6%	50.9%
中学校	52.1%	46.1%	50.0%	48.0%	50.0%